



菅原 隆文  
(よねしろ会)

## 二ツ井統合小建設に ゼオライトの活用を

**質問** 二ツ井統合小学校の新校舎建設に当たり、地元産材の秋田杉だけでなく、質、量ともに日本一と言われる二ツ井産の天然ゼオライトを床下調湿材として使用し、健康や環境に配慮した木造校舎とし、ゼオライトの利活用を全国に情報発信すべきである。

**答弁** ゼオライトの活用については、これまで旧二ツ井町において、公営住宅の床下に調湿材として使用したほか、「二ツ井ゼオライト建築利用を考える会」が、建築資材としてのゼオライトの実用化を探る目的で、調湿実験などを行っている。学校への使用については、それらを踏まえ、使用できる場所や調湿効果、コストなどを検証の上、実施設計において検討していきたい。

### 菅原議員のその他の質問事項

- 市と社会福祉協議会とのあり方は
- スポーツ大会の誘致と支援体制は
- 水害の検証・指示は適切だったか

## 市史編さん入札中止の件、 市側の責任は

**質問** 情報漏えいした入札中止は、秋田市の不正業者だけの責任で、市側の見積もりの取り方や入札仕様書等に落ち度や問題がなかったか。以前の市史に関するこの業者との随意契約が不正の温床ではないか。今後の編さん事業のあり方に問題はないのか。

**答弁** 旧能代市史は現在まで6巻刊行されており、第1巻は市内業者と秋田市の業者で構成する共同企業体と契約したが、市内業者が技術的にこの事業に対応できず、実質的には秋田市の業者が行った。このため2巻から6巻までは、秋田市の業者と随意契約した。6巻「特別編 民俗」の発注の際に、市内の印刷業者に対応の可否を確認したが、その時点でこの体制では万全と言えない旨の回答だった。今回、7巻目の発注に当たっては、新市における入札制度を基本に、これまでの実績も考慮し、県内業者を対象とした応募型指名競争入札とした。現在の本市の入札システムには問題がないと考えていることから、入札が取りやめになったことについての市側の責任はないと考えている。

## 危機管理対策



庄司 紘八  
(市民の声)

**質問** 過去2回の災害の後、危機管理体制の確立と強化がなされたと思うが、対策本部内での現状把握や指示系統など、今回の実態はどうであったのか。また、それはどう生かされたのか。また、災害対策本部の情報伝達方法や避難所への伝達方法に問題はなかったか。

**答弁** 市職員の巡回は、避難指示の広報と道路等設備の状況確認・記録等、それぞれ目的をもって別に巡回した。現状把握は、職員、消防等の巡回による情報、国・県等からの電話、インターネット及びファクスによる情報等により把握した。また、避難所へは、避難者の安全確保、情報伝達、物資配給の必要人員の把握と配分等を指示した。対策本部では水位等の情報を電話及びファクスで各避難所に通知したが、必ずしも各避難所が必要とする個別の情報を提供できなかった部分もあったので、情報の収集、伝達のあり方について、今後、検討していきたい。

## 旧東中跡地への 避難施設設置

**質問** このたびの災害でつくづく感じたのが、機織・臈沢地区には避難場所がないことである。旧東中跡地に避難場所となり得るものをぜひ整備してほしい。また、行政区の見直しを行い、煉瓦場から四ツ屋まで、まさに東能代地域が一つになれるように望む。

**答弁** 避難所の選定は、既存の学校施設及び公民館等としており、それが使用できない場合は民間施設を借り上げる等の対応をしたい。現在、旧東能代中学校跡地への避難のための施設整備は予定していないが、必要な施設であると考えている。跡地利活用については、地域住民のご意見を聞きながら進めていきたい。煉瓦場・仁井田・機織の行政区の見直しは、東能代地域まちづくり連絡協議会で話題となっていることは承知しているが、見直しは、そこに住民の総意によってなされるのが重要であり、今後の地域の具体的な要望や地域住民の意向などを見た上で検討したい。

### 庄司議員のその他の質問事項

- 能代市史通史編入札中止
- 能代以外の企業の入札参加状況は
- 市長が考えるビジョン